第７８号
令和5年6月27日
編集責任者　石井　卓也

清里農連通信

発行　清里町農民連盟
清里町羽衣町2番地
TEL 0152-25-3792
FAX 0152-25-3793

農水省との意見交換

6月14日から16日にかけ実施された移動執行委員会の初日、農林水産省との意見交換を行った。内容としては、はじめに種子馬鈴薯の検査と復活ルールについて。次に肥料高騰対策について、さいごに鳥獣被害対策についての三点を議題として話し合った。

種子馬鈴薯については、現場の状況は理解しているがルール作りが難しいとのこと。広い地域での議論が必要であり、農水省としても新しい解釈でのルールを模索中とのことで、お互い向かう方向性は同じだということが確認できた。

肥料高騰対策については、示された高騰率1.4は全国を見た中で出された数字とのことで、逆に言えば個別データを使うことが出来ないとのことだった。どうしても地域差が出てしまうが、その数字の集計方法に工夫が必要であり難しいとのこと。

鳥獣被害対策については、全国的にも被害が増えている中でその数を抑えている地域の事例を紹介された。被害や生息状況をマッピングし、状況を見える化することが重要とのこと。ただこれは広く周知する必要があるし、時間もかかる方法である。その他様々な場面で使える補助金があるのでぜひ調べてほしいとのこと。

意見交換を通して、お互い概ね考える方向性を確認しあえることが出来たという印象。この先も営農継続ができる様さらに働きかけが必要だと思った。

市橋　淳史





要望書提出・座り込み

移動執行委員会二日目は、北海道選出国会議員への要請活動、議員会館前にての座り込み運動という行程となります。

要請書の内容としては、「食糧安全保障の強化について」「燃油・肥料・飼料高騰対策について」「鳥獣被害対策の充実」「国有林対策」の4項目となっており、衆参両院12名の方々へ提出。時間も限られており短い時間ではありましたが、清里町農業の課題・被害を訴える事が出来ました。今後、この行動が私たち農業者にとって意義のあるものとなることを望みます。

その後、国会議事堂を見学させていただき、昼食後座り込み運動を開始。坂野委員長の第一声の後、参加者全員がそれぞれの想いを議員会館前にて発しました。日本の中心部永田町でとても意味のあるアピール運動が出来たのではと思います。当日は社会見学もあり、多くの小学生が見て・聞いてくれていました。農業の大切さ、大変さというものを少しでも考えてもらえる機会になってもらえたらなと願っています。私もこういう運動に参加するのは初めてでしたのでとても緊張してスタートしましたが、子供達の存在もありリラックスできましたし、楽しくやり切ることが出来ました。忘れることのない貴重な体験・経験をさせていただきました。

佐藤　学







要請書提出先

衆議院

武部新(自民)、石川香織(立憲)
逢坂誠二(立憲)、神谷裕(立憲)
伊藤良孝(自民)、緒方林太郎(無)

参議院

徳永エリ(立憲)、藤木眞也(自民)
舟山康江(国民)、紙智子(共産)
勝部賢志(自民)、舟橋利実(自民)

震災の記憶と教訓を巡る1日

移動執行委員会の最終日、私達は宮城県にある東日本大震災の震災遺構を見学しました。

2011年3月11日14時46分に宮城県三陸沖を震源とするM9.0の地震が発生し、震源に最も近い宮城県で震度7を観測した国内最大、現在世界で4番目に大きい地震でした。3分後の14時49分には東北地方を中心に巨大な津波が発生し、その衝撃的な映像はテレビ等で私の目に今も焼き付いています。死者数は1万人を超え、その多くが宮城県でした。

まず初めに訪れたのは【石巻市震災遺構 門脇小学校】でした。ここは津波とその後に発生した津波火災の被害状況を残している全国で唯一の震災遺構で、語り部さんの説明を聞きながら津波でぐちゃぐちゃになった消防車、焼け焦げた教室の中を見て回りました。その後「がんばろう！石巻」の印象的な看板が設置され、今も復興のシンボルとして追悼式等が行われている【石巻南浜津波復興記念公園】の敷地内に新たに建設された、建物の屋根の一部分の高さが当時この地域で津波が停滞した時の高さ6.9メートルになっている【みやぎ東日本震災津波伝承館】に行きました。ここでは震災の地震や津波の記録をパネルや映像で展示していました。

塩釜市で昼食を摂り仙台市へ移動後、【震災遺構　仙台市立荒浜小学校】を見学。ここでは津波と瓦礫が校舎の２階を突き破ってきた様子が保存され、生徒と先生や避難して来た人が救助されるまでを映像とパネルを使って細かく紹介されていました。

12年経った今も煤けた臭いが残っている門脇小学校の中、震災前は住宅地で津波によって瓦礫の山になった地域を利用した復興記念公園、周囲の建物が全て流され何もない所にポツンと残っている荒浜小学校の校舎、どこに行っても私は胸が苦しくなりました。唯一の救いは２つの震災遺構で避難者に死者が１人もいなかった事です。

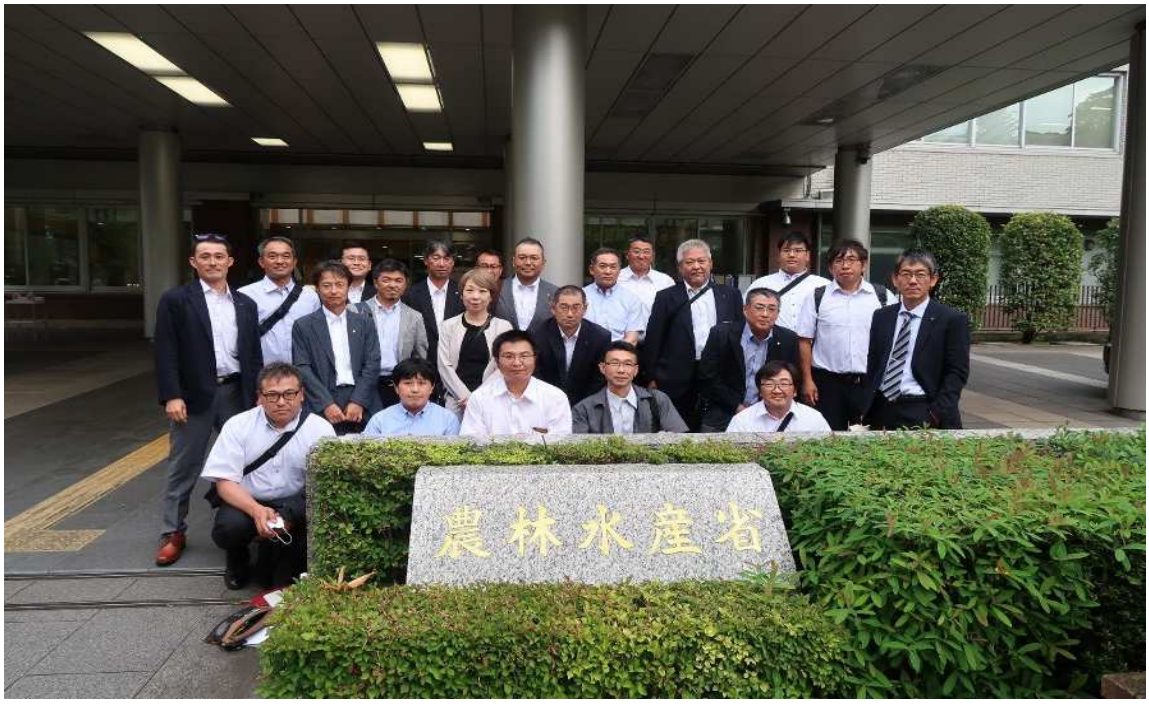
観光客は勿論ですが、沢山の小学生が見学に来て語り部さんの話に熱心に耳を傾けていました。何気なく一組の小学生６年生を引率している先生に話しかけた時に、先生が『気分が悪くなるかも知れない事は事前に伝えましたが、何よりも子供達が当時の事を知りたがっているんです。』と答えてくれたのが印象深く、私も彼らと同じ6年生の自分の子供に今日の事を話して聞かせようと思いました。

地震や津波はいつ、何処で起きるか分かりません。自分や家族が被災するかも知れないと思うと今日の経験はとても価値あるものでした。私にとって東北地方はなかなか行く機会がない地域でしたが、これを機に今度は家族で訪れる事が出来たらと思います。

目黒　寛樹









編集後記

連盟執行委員になり、初めての移動執行委員に参加しました。特に印象に残っているのが国会前での座り込みです。我々しかいないものと思っていたのですが、他にもたくさんの団体が声を出していてとても驚きました。同じ時間・場所でほかの団体とかぶってしまい、私たち２時間待ってるから移動してくれない？と声がかかる場面もありました。議員会館前にいる警備員にもどのような団体でしょうか？と声がかかり、無線で何か報告していました。そういったことがとても新鮮でしたし、勉強になった３日間でした。

石　井